平成３０年度第２回福島県総合教育会議　議事録（概要）

１　日時	平成３１年２月１３日（水）１０時３０分～１１時４５分
２　場所	杉妻会館　３階「百合」
３　出席者	知　事　　内堀 雅雄 教育長　　鈴木 淳一 教育委員　　浅川 なおみ　岩本 光正　高橋 金一　蜂須賀 禮子　正木 好男 ＜五十音順に掲載＞
４　議事内容及び経過	
（１）開会	事務局（政策調査課長）
（２）議題	**＜地域学校活性化推進構想について＞** **【知事】** 議題１は、地域学校活性化推進構想について。地域と学校の協働については、これまでの会議においても、委員の皆さんから様々な御意見を頂き、その大切さを共有してきた。 今後、こうした考えを福島県全体で共有し、子どもたちの教育、さらには、地域の活性化を一層進めていくため、現在、教育委員会において、新しい構想の策定に取り組んでいる。 教育総務課長から、構想案の内容について説明を行った上で、意見交換に移っていきたい。 **－　教育総務課長から資料 1-1、1-2 に基づき説明後、以下のとおり、意見交換　－** **【教育委員】** 地域で子どもたちを支えていくということは、とてもすばらしいこと。今後、人口減少が進む中で、一人一人の子どもを大人になるまで大切に育てていくということが、教育の本質ではないかと考える。小規模な町村が地域全体で子育てする際に取り組みやすい一方で、課題等も出てくると思う。今回の「地域連携担当教職員の設置」については、先日開催された地域学校協働活動推進フォーラムで話を聞かせていただいたが、こうした課題にも対応できるすばらしい取組であり、とても期待している。 **【教育委員】** 「地域連携担当教職員の設置」については、担当職員同士の横の連携強化や、スキルアップに向けた研修を行うなど、実効性のあるものにしていく必要がある。

	また、地域課題探求活動、いわゆるＰＢＬ教育の推進は大変重要な活動なので、学校の教育活動にも位置付けていただきたい。 「地域との連携による県立高等学校の特色化」について、先日、テレビで放送された東京の地下工事に関する番組を見て、日本の工業技術のすばらしさを実感した。工業、農業、商業、水産業など、それぞれの専門分野で学んでいる生徒たちには、社会にどのように関わりを持つべきか、現在学んでいることがいかに重要で、どのように社会に貢献できるかということを是非、知ってほしい。学力だけが基準になりがちな風潮もある中で、モノづくりに携わる人たち、その技術があって社会が構成されていることにプライドを持ってほしい。そのためには、それぞれの地域の産業界との連携を持つことが大切である。 「地域と学校の連携」については、地域の歴史や文化を子どもの頃からキャリア教育として教えていくことが大事。いわき市では平成２８年に「いわきアカデミア推進協議会」を立ち上げ、具体的な支援体制を整えている。今回、県としてもこうした施策に取り組むことは非常に重要であり、私としてもしっかり支援していきたいと考えている。 **【教育委員】** 先日テレビで、北海道の小学校において、地域の住民と学校が一緒になって校庭に水を撒き、スケートリンクを作る活動を放送していた。この地域では何十年も前から、ＰＴＡ（Ｐ：親、Ｔ：教員、Ａ：組織）にＣ（コミュニティー（地域住民））を加えたＰＴＣＡという形で活動に取り組んでいる。こうした取組を踏まえ、本県で地域との連携を進めるに当たり、期待していることがある。それは、規範意識やモラルの向上である。最近、若者の規範意識の低下を感じることがある。会社を休む際、電話で連絡せずにラインで報告する若者が増えているとの話を多くの会社から聞いている。こうした原因の一つとして、核家族化があるのではないかと思っている。福島県の核家族化率は非常に高く、昔のように、祖父母が孫に社会のルール等を教えながら子育てすることも少なくなっている。小さい頃から、家族や学校が地域の方とコミュニケーションを取りながら、悪いことは悪い、「ならぬことはならぬ」と常識を身に付けられるような取組を期待している。 **【教育委員】** 川内村で取り組んでいる放課後教室について、住民の方と話す機会があった。とても良い取組だと思ったので、誰が子どもたちに教えているのか聞いたところ、退職した保育所の先生や若者とのことだった。平日の放課後に宿題を教えたり、様々な協力をしてくれている。一番良いと思ったのは、子どもたちがゲームなどをせずに、みんなで勉強していること。また、地域の高齢者の方たちの生きがいにもなっているとのことだった。地域の宝である子どもたちに寄り添いながら、地域みんなで育てている。村では平日だけではなく土曜日も実施したいとの意向があり、私としてはいずれコミュニティースクールにしたいというのが希望である。県としても、このようなすばらしい取組をしっかりと支援してほしい。 **【教育委員】**

	先日、教育・文化関係の表彰式で只見町の朝日小学校が表彰された。校長先生に、地域と学校の関わりについて伺ったところ、お年寄りを含め地域の方々が積極的に学校と関わっているとの話を聞くことができた。このように小規模な自治体であれば、地域が子どもたちとのコミュニケーションを取りやすく、地域に根ざした取組ができる一方で、都市部、特に高校では難しい部分もあると感じている。そうしたことからも福島県地域学校活性化推進構想にある「地域学校協働本部」の体系をしっかり活用すべきであり、実業高校においては、先ほどのいわきアカデミアの取組等を参考に、経済団体との情報共有を図り、「経済界の方々に経済の発展は教育に懸かっている」との認識を持ってもらうなど、協働本部と関係機関とが有機的な連携を図りながら、しっかり取り組んでほしい。また、今後、外国語が重要になってくることから、普通高校では日常的に外国人と触れ合う機会があっても良いのではないか。地方振興局を始めとする知事部局と教育庁、県全体で連携を密に取組を進めてほしい。 **【知事】** 教育委員の皆さんの意見を踏まえて、教育長から感想を。 **【教育長】** 委員からは、「経済の発展は教育に懸かっている」との力強いメッセージを頂いた。２年前に「頑張る学校応援プラン」を作成し、その三本目の柱を「地域と共にある学校」とした。地域では、家庭も含め教育力の低下が懸念されている。人間関係が希薄化し、社会規範が身に付かない、コミュニケーション能力の低下なども背景にあるのではないか。これらを改善するため、学校だけではなく、地域と一体で教育に取り組むことが大事。地域にも多くのメリットがあり、活性化にもつながる。そして学校も地域に貢献できるというウィンウィンの考えの下、２年間取組を進めてきた。現在では、アクティブラーニングなども盛んに取り組まれている。 また、小学校では地域との連携がある程度進められてきた一方で、高校では、まだまだ不十分なところがある。ふたば未来学園高等学校では、地域の未来創造探求ということで、町と高校が地域の課題を共有し、一緒になって課題解決のための探究と実践に取り組んでおり、教育的な効果が確認されている。こうした効果を特定の学校や教員、あるいは自治体だけの取組ではなく、県全体に広げていくために、この構想を策定した。いわきアカデミアでは既にすばらしい活動をされているので、今後の展開に際して参考にさせていただきながら進めていきたい。また、取組が進んでいない学校や市町村にも丁寧な説明に努めていきたい。 **【知事】** こうした地域と学校の関わりを深めていく取組は、非常に大切である。先ほど紹介のあった、いわきアカデミアや川内村の放課後教室などの取組は、地域と学校が関わって、お互いに良い刺激を与え合うすばらしい事例であるが、これを県全体に広げていくことが大事。また、誰が主体となって取り組むかが重要。既に取組が進んでいるところには、学校や自治体、企業などにそれぞれ熱意を持ったキーマンがおり、プラスの相乗効果が出ている一方で、「言われたからやる」ということでは

うまく機能しないと思う。やはり楽しみながら、やりがいを持って取り組むからこそ、こういった取組は成功するのであって、新しく始める際に前向きにやってみようと思っていただけるかどうかが、この地域学校活性化推進構想の成否を握っていると思う。委員の意見を是非、受け止めながら進めていってほしい。

＜「ふくしま学力調査」等に基づく学力向上策について＞

【知事】

次は、報告の一つ目、「ふくしま学力調査」等に基づく学力向上策について。現在、取組が進められている「頑張る学校応援プラン」の大きな柱の一つに「学力向上に責任を果たす」という項目がある。福島県の子どもたちが、夢や希望を持って歩みを進めていくためには、しっかりとした学力を身に付けることが重要。義務教育課長から、学力向上に向けた今後の取組について説明し、意見交換を行っていきたい。それでは、説明をお願いする。

－義務教育課長から資料 2-1、2-2、2-3 に基づき説明後、以下のとおり意見交換－

【教育委員】

学力調査は、子どもたちの学力を経年的に把握し、向上度合いを見ながら、また、リーディングスキルテストは、子どもたちの読解力をしっかり認識した上で指導に役立てるなど、それぞれ生徒からの情報をよく把握して指導につなげるという意味で非常に良い取組だと思う。特に、リーディングスキルテストについては、新井紀子さんというロボット工学の専門家が、東大入試を突破する人工知能（ＡＩ）の研究を通して開発した、基本的読解力を測定するためのテストだが、今年度は新井先生の御厚意により、無償で約６，０００人の生徒がこのテストを受けることが出来た。一方で、来年度については、無償という訳にはいかず、規模を縮小せざるを得ないことになったのは残念であり、個人的には県内全ての子どもに受けてほしいと思っている。すばらしい施策なので、今後も県としてしっかり取り組んでいってほしい。

また、学力向上策に関して、現在行っている先進地における教員研修についても、来年度は縮小の方向と聞いている。県においては、教員のスキルアップ等も大切にしながら、子どもたちに明るい未来が広がっていくような取組を進めてほしいと思う。

【教育委員】

このリーディングスキルテストの内容を読んだ時、「普段から本を読んでいないと、教科書を読むことも難しいだろうな」と思った。このため県としても、読書力向上への取組を継続的に行ってほしい。予算の話も出たが、福島県の将来を考えた場合、目先の結果を求めるのではなく、やはり教育、子育てにお金を掛けるべきだと思う。また、前委員がおっしゃっていたことだが、試験の平均値を上げるには、上の者を伸ばすだけではなく、下の者にも力を付けさせることが大事だと思うので、今回の学力調査もこうした点を踏まえて取り組んでほしい。

	【教育委員】 文書の読解力は国語だけではなく、他の教科にも大きく影響してくる重要な要素なので、小さい頃から活字に触れる機会を多く持てるような施策等、予算の確保を含めしっかり取り組んでほしい。 【教育委員】 リーディングスキルテストについては、教育委員会で説明を伺い、非常に重要な取組であると認識している。読解力というのは、普段、活字に親しむことで向上していく一方で、現代社会においては、ゲームに熱中し過ぎるなど、活字離れが進んでいる。こうしたことから、リーディングスキルテストは、全生徒を対象にしていただきたいと考えており、予算措置も含めて御検討いただきたい。 【教育委員】 私が教育委員に就任して最も取り組みたかったことが、これらの取組である。また、予算に関する話もあったが、それ以前に、読解力を向上させるために必要なことは家庭教育だと思っている。例えば、親が普段から新聞や本を読む時間を作っていれば、子どもも読書に時間を割くようになり、読解力につながっていくのではないか。 学力調査について、子どもたちの学力を経年的に把握し、追跡調査を行うことは非常に大事なことだと思う。学力の背景には、例えば家庭環境の変化やいじめなどが影響している場合もあることから、点数のみに着眼するのではなく、そうしたこともしっかり把握していただきたい。また、社会情勢の変化を踏まえ、子育てや教育の仕方もどのような形が望ましいのか等、子どもたち一人一人が健やかに成長するために広い視野に立って取り組んでほしい。 【知事】 教育委員の皆さんの意見を踏まえて、教育長から感想を。 【教育長】 今回の取組については、エビデンスに基づいて教員の指導力向上等を図っていきたいという思いで始めたもの。学力調査については、経年の追跡調査により分析を行うため時間を要するが、これにより、あるクラスでは上位層が伸びている、違うクラスでは下位層が伸びている、さらに、教員の指導方法等まで分析が可能となり、必ず学力の向上につながるものと考えている。 また、リーディングスキルテストについては、私も、新井紀子先生の「ＡＩvs.教科書が読めない子どもたち」という本を読ませていただいたが、非常に腑に落ちるところがあった。新井先生にお声掛けしたところ、本当にお忙しい中、御協力を頂き、今回の取組となった。私の持論だが、読解力の低下には、地域社会や家庭における教育力の低下、あるいは人間関係の希薄化が関係しており、さらに、コミュニケーション能力の低下も心配している。地域学校活性化構想についても同様に、こうしたことにしっかり取り組まなければならない。学校教育だけを一生懸命やろ

	うと思っても、子どもたちに力は付いていかないと考える。予算についても御助言を頂いたが、新しい取組となることから、保護者の方を始め、丁寧に説明しながら進めていきたい。 ＜県立高等学校改革前期実施計画について＞ 【知事】 続いて報告事項２に入る。県立高等学校改革前期実施計画について、県立高校改革室長から報告をお願いする。 －　県立高校改革室長から資料 3-1 について説明　－ 【知事】 それでは、この件について、御意見等あればお願いする。 【教育委員】 ある高校のＰＴＡから、「キャリア指導推進校」や「進学指導重点校」等の位置付けはどのように行われているのかとの話があった。今後、取組を進めていく中で、学校や保護者の方に丁寧に説明し、理解を頂くようお願いしたい。 【教育長】 今ほどの御指摘については、改革後の高等学校の姿が、いかに魅力的になっていくか、それぞれの生徒にどのように応えていけるかという観点で説明をしていきたい。今後、地域の皆さんと懇談を深めていく中で、統合後の形というものをきちんと創り上げていきたいと思う。
（３）閉会	【知事】 以上で、本年度第２回目の総合教育会議を閉じる。